

美しい三角州の町を一周

津市

香良洲町

津市の東南に位置する香良洲町は、伊勢湾へと注ぐ雲出古川と雲出川によって形成された三角州の町。地図で確認すると、扇を広げたように見事な三角形を描いているのがわかります。

面積は、わずか39キロ平方メートルですが、老松が生い茂る公園、伊勢湾沿いに続く白砂青松の海岸など、変化に富んだ景観が見られます。また、天照大神の妹神を祀る香良洲神社や国登録有形文化財の酒店など、歴史ある名所もあり、見ごたえ十分です。

今回は、香良洲町内をぐるっと一周します。

取材・文：中村真由美



「サンデルタ香良洲」



「津市香良洲歴史資料館」(月曜日休館)
TEL059-292-2118



香良洲神社本殿

香良洲神社から香良洲海岸へ
今回の旅の起点は、津市香良洲総合庁舎近くの「サンデルタ香良洲」駐車場です。トンガリ帽子のような屋根が目を引き施設には、図書館や多目的ホールなどが揃います。公共交通機関を利用する場合は、近鉄・JR「津」駅前のバス停「津駅前」から三重交通バスに乗り、「香良洲総合支所前」か「香良洲神社前」で降りるとよいでしょう。

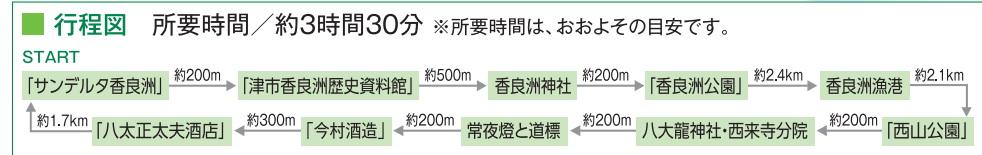
「近くに『津市香良洲歴史資料館』がありますから、寄っていきましょう」と案内されたのが、東海地方でも数少ない「戦争と平和」をテーマにした資料館。ここでは、かつて多くの若者が航空機搭乗員としての基礎訓練を受けたという、「旧三重海軍航空隊」関連の資料を見ることができます。

勢神宮の「式年遷宮」の翌年、平成26年に建て替えられたばかり。「式年遷座」と呼ばれます。前年には「お木曳行事」も行われ、境内の「香良洲神社資料室」(要予約TEL059・292・3905)で、行事の際に身にまとう装束などを見ることができます。

また、8月15日の夜から16日の未明にかけて境内で行われる「宮踊り」(別名かんこ踊り)は、氏神様に豊作を感謝祈願する奉納踊りで、香良洲の夏の風物詩となっています。



今回の案内人は、「香良洲ガイド～矢野路」の濱村 隆通(たかみち)会長と、会員の奥田 菊子さん。同会では、ボランティアガイドに加えて、町内の歴史を掘り起こし、次世代へと語り継ぐ活動を積極的に行っています。



「宮踊り」※



道標



常夜燈(右)と道標

西来寺分院もたずずんでいました。
 八大龍神社に手を合わせ、住宅地の
 中へと入っていくと、すぐに大きな常
 夜燈に気が付きました。周囲には道標
 も建ち、「からす道」の文字などが読み取
 れます。香良洲道は、伊勢参宮街道の
 脇道の一つ。かつてはお伊勢詣らば可
 良須(香良洲)に詣れ、可良須詣らば片
 参宮ともいわれ、伊勢神宮への参拝の



「今村酒造」店内に掲げられた看板

前後に、香良洲神社を詣るために、
 多くの人々がめざした道なのです。
 「香良洲は小さな町ですが、かつては
 2軒も造り酒屋がありました。『今村酒
 造』は、昔ながらの味を今も守り続けて
 いますよ」とのお話で、まず「今村酒造」
 を訪ねます。万延元(1860)年創業
 の同店では、歴史の重みを感じる看板
 を目にすることができました。そして
 もう1軒は「八太正太夫酒店」。現在は
 醸造は行っていないませんが、建物の多く
 は明治時代に建てられ、平成25年に主
 屋など4棟が、国の登録有形文化財と
 なりました。



趣のある蔵などが並ぶ「八太正太夫酒店」

黒と白の壁が印象的な蔵などを堪能
 し、途中で、香良洲梨の畑などを眺め
 ながら、「サンデルタ香良洲」へと戻り
 ます。自然と歴史が凝縮した香良洲一
 周の旅は、これで終了です。なお、バ
 スを利用の場合は、本数が少ないため、
 事前に確認するとよいでしょう。

問 香良洲ガイド「矢野路」
 (津市香良洲総合支所地域振興課)
 TEL 059-1292-4308

※印の写真は取材先から提供していただきました



「香良洲公園」

香良洲神社で神聖な気分になった後は、東へ進みます。数分で「香良洲公園」に到着。園内には、見上げるほどの松の巨木が並び立ち、独特の景観となっています。ここは、古くは香良洲神社の神領地だったと教わります。
 根元がぐつと持ち上がった松などに圧倒されながら歩くと、堤防の先に広がる海が望めました。香良洲海岸です。潮干狩り時期には家族連れなどで賑わう海岸に沿って、約2キロメートルの堤防が続き、この日は、さざ波の音を聞きながらの散策ができました。



松並木が続く「浜堤」

「あそこ松並木がありますが、以前はあの辺りまで砂浜が広がっていたのです」と濱村さんが指さす方向は、堤防から100メートル以上も陸地側です。松並木の方へ移動してみると、光景は一変。少し盛り上がった道の両側に松の巨木が立ち並びます。この趣ある道は「浜堤」と呼ばれ、海の砂礫などが波によって打ち上げられて形成された自然堤防だと教わります。

「香良洲神社へと続く香良洲道」

しばらくの間、「浜堤」で古の旅人気が

分を味わった後は、再び、潮の香りに誘われて堤防を歩きます。突き当たりの香良洲漁港で方向を西へ変えると、今度は川が現れました。町の北端を流れる雲出古川です。「西山公園」や、ヘリポートが設置された「香良洲町防災ステーション」などを通りながら川沿いを歩くと、やがて、木々に囲まれた小さな社が見えました。八大龍神社です。同社には延徳2(1490)年草創で、現在は津市乙部にある西来寺にまつわる「龍神物語」が語り継がれ、地域の人々が守り続けています。また、隣接して



八大龍神社